

4 救命救急センター



現在10名の救急専従医、3名の非常勤医師によって救命救急センターの機能が多様化、細分化されたのを受け、重症複合病態や外傷、熱傷、災害などに集中治療医、外科医、内科医、循環器内科医、整形外科医、脳外科医による集学的医療体制で臨んでいます。

2023年度の受け入れ状況は、コロナ禍の終焉にかけて、重症新型コロナウイルス感染症患者は大きく減少し、従来の重症広範囲熱傷患者、高エネルギー外傷患者、急性薬物中毒患者が増加しました。ただし、肺炎に伴う重症ARDS症例におけるVV ECMO(体外式膜型人工肺)を装着しなくてはならないような患者さんのご紹介を頂く機会が増えました。一方で、疾患特異的な救急患者や、軽症の新型コロナウイルス感染症患者はコロナ禍のフローに従い各診療科に負担頂きました。そのため、重症新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ総数は昨年度を下回りましたが、一般救急重症患者の受け入れは昨年から増加しました。熱傷センターでは先端医療として重症広範囲熱傷患者に対して、自家培養表皮や人工真皮による植皮術などを熱傷専門医の指導のもとに行い、良好な成果をおさめています。四肢(手指)切断に対しても大学病院形成外科、整形外科との協力関係下に再接着術等も積極的に受け入れています。内因性疾患では、心肺機能停止患者をはじめ、心室細動による心肺機能停止患者に対しては初療室で迅速に体外循環装置である経皮的人工心臓(PCPS)を導入するとともに病態に応じて当センターCCUと協力し冠動脈形成術、脳低温療法を組み合わせ、社会復帰できるよう高度集中治療を実践しています。

社会問題となっている周産期救急医療に対して産科・婦人科、小児科などと協力して対応しています。重症急性膵炎に対する動脈注治療や血液浄化療法、劇症肝炎に対する血漿交換療法、食道静脈瘤破裂や出血性胃潰瘍に対する内視鏡的止血術、前述の重症心不全や呼吸不全に対する補助循環装置(PCPS)や人工心臓(ECMO)を用いた高度集中治療を実践しており、阪神間にとどまらず県外も含め遠方からの転院依頼もヘリコプター搬送などを利用して受け入れています。また、災害拠点病院に指定されておりDMAT(災害医療派遣チーム)を2チーム以上構成し、1名の災害医療コーディネーターと1名の統括DMAT隊員を要しており能登半島沖地震に参加し、実際の派遣時に責務が果たせるように日々修練しています。教育面では、医学生教育はもとより病院内外を問わず若手および中堅医師・看護師・メディカルスタッフ・救命士等に対しBLS(一次救命処置トレーニング)・ICLS(心停止に対する蘇生トレーニング)・ISLS(脳卒中初期診療トレーニング)を定期的に関講し実践に活用できる能力を養えるように講義・指導をしています。特にレジデントや看護師、救命士などによる第20回メディカルラリーでは、優勝しています。

4-1 月別入院患者状況

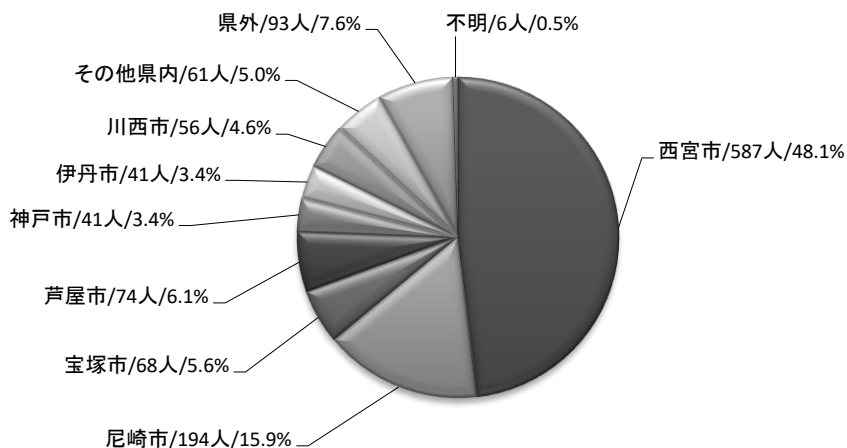
(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
E I C U	新入室	101	111	101	127	139	112	108	117	146	110	81	1,370	
	転入	20	9	9	17	16	8	17	11	9	19	18	170	
	退院	23	16	12	17	29	15	13	20	16	38	20	229	
	転出	107	104	96	124	129	105	114	104	114	120	109	1,318	
	延在室	353	291	306	335	364	323	280	325	386	419	372	4,069	
	一日平均	11.8	9.4	10.2	10.8	11.7	10.8	9.0	10.8	12.5	13.5	12.8	10.2	11.1
	利用率(%)	49.0	52.2	56.7	60.0	65.2	59.8	50.2	60.2	69.2	75.1	71.3	56.5	
	稼働率(%)	67.1	73.7	76.7	85.3	93.5	82.0	72.9	83.1	92.5	103.4	96.0	74.7	
救急病棟	新入室	5	12	8	8	1	3	8	6	6	3	8	74	
	転入	58	82	72	84	90	70	81	71	74	83	75	893	
	退院	24	39	27	34	33	31	30	22	18	29	22	326	
	転出	34	50	53	59	54	44	61	52	61	62	54	631	
	延在室	490	526	578	588	665	633	613	630	674	655	605	7,193	
	一日平均	16.3	17.0	19.3	19.0	21.5	21.1	19.8	21.0	21.7	21.1	20.9	17.3	19.7
	利用率(%)	90.7	70.7	80.3	79.0	89.4	87.9	82.4	87.5	90.6	88.0	86.9	72.0	
	稼働率(%)	101.5	82.7	91.4	91.5	101.1	98.3	94.6	97.8	101.2	100.3	97.8	80.6	

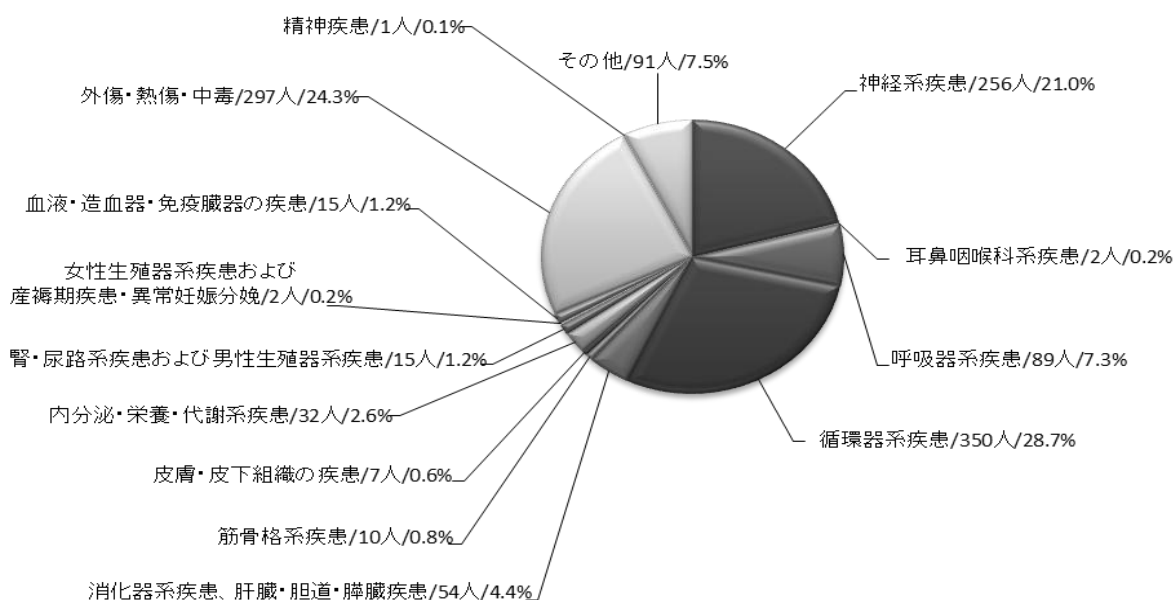
※新型コロナウイルス感染症に係る特例措置のため、2021年2月以降はEICU24床、救急病棟18床となっていたが、2023年5月以降は特例措置以前同様EICU18床、救急病棟24床となった。

利用率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}}$	稼働率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}}$
--	--

4-2 2023年度住所地別患者数の構成比率(合計1,221人)



4-3 2023年度主要傷病別患者数の構成比率(合計1,221人)



4-4 2023年度年齢別患者数の構成比率(合計1,221人)

